

4 学校給食の対応

4-1 基本的な考え方

学校給食を提供する場合、安全性を最優先します。また、学校給食において対応食を提供する際には、「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン《令和元年度改訂》」に基づき、主治医の診断による「学校生活管理指導表」の提出を必須とします。

なお、学校及び調理場の施設整備や人員配置等を鑑み、無理のある対応は行わないようにします。

食物アレルギー対応の大原則

- ◆ 食物アレルギーを有する児童生徒にも、給食を提供する。
そのためにも、安全性を最優先とする。
- ◆ 食物アレルギー対応委員会等により組織的に行う。
- ◆ 「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」に基づき、医師の診断による「学校生活管理指導表」の提出を必須とする。
- ◆ 安全性確保のため、原因食物の完全除去対応（提供するかしないか）を原則とする。
- ◆ 学校及び調理場（※1）の施設設備、人員等を鑑み無理な（過度に複雑な）対応は行わない。
- ◆ 教育委員会等（※2）は、食物アレルギー対応について一定の方針を示すとともに、各学校の取組を支援する。

※1 本指針において、「調理場」とは、特段区切りがない限り、単独校調理場・共同調理場を含む、学校給食調理施設全体を指す。

※2 本指針において、「教育委員会等」とは、公立学校における教育委員会のほか、国立附属学校における国立大学法人、私立学校における学校法人等、学校の設置者を指す。

（参考文献 「学校給食における食物アレルギー対応指針」 文部科学省）

食物アレルギー対応の原則的な考え方

◆ 最優先は「安全性」

- ・学校給食では「安全性」が最優先されなければなりません。保護者・本人の希望は、安全性が十分に確保される範囲で対応することが大切です。

◆ 二者択一の給食提供

- ・「安全性」を確保するために、除去食や代替食の提供は多段階では行わず、原因食物を「提供する・提供しないという二者択一」を原則的な対応とすることが望ましいです。

【例：牛乳アレルギーの場合】

従来の多段階対応では、①除去 ②少量可 ③加工品食品可 ④牛乳を使用した料理可 ⑤飲用牛乳のみ停止など、様々なレベルがありました。

しかし、対応が複雑・煩雑となり、負担の増加ばかりか事故のリスクも高くなります。

- ・上記の例のような状況になるため、二者択一、除去か、他の児童生徒と同じように全ての牛乳・乳製品を提供するのどちらかで対応しましょう。

◆ 代替食と除去食での給食提供

- ・給食の提供には、代替食と除去食があります。本来の学校給食における食物アレルギー対応の理想的な提供方法は代替食です。しかし代替食は、除去食よりもきめ細やかな対応が必要となるため、安全性が担保できないときは除去食対応を選択しましょう。

①除去食の場合、除去した献立に代替はしません。もしそれが、中心献立・食材であった場合、給食として成立しないため、一部弁当対応となります。

②代替食の場合、除去した献立に代替する献立・食材を加えます。ただし、アレルギー対応献立はできる限り工程作業が最小限になる調理方法を選択し、原因食物ごとに別々の献立や調理方法は設定しません。

【例：八宝菜の代替食を提供する場合】

卵のアレルギー対応を要する児童と、エビのアレルギー対応を要する児童へのアレルギー対応を行っている調理場では、以下の点に留意して、調理するようにします。

①うずら卵除去 ②えび除去 ③うずら卵・えび除去の3つの代替食での対応を行うのではなく、③のみの対応を行うなど、調理工程や配膳が複雑にならないようにします。

◆ 二者択一で除去食対応としたときの問題点や疑問点

①給食を食べられなくなる児童生徒がいる

これまで一定レベル以上の給食を安全に食べられていた児童生徒が、除去対応となるため、対応の後退を問題にされる可能性があります。

⇒個人で考えれば、一部の児童生徒にとって二者択一の給食提供は対応の後退に映るが、この方針は学校給食における食物アレルギー対応全体の安全性向上という目的があります。こうした説明を保護者・本人に丁寧に行い、理解を得るようにします。

②調味料や微量混入まで完全除去管理となると、かえって現場の負担になります。

⇒多くのアレルギー疾患の児童生徒は、前述したように調味料の使用や微量混入では症状が誘発されないと考えられます。このため、完全除去管理が必要な場合、対象は重症患者であり、安全性の確保が困難であれば給食対応は勧められません。この場合、弁当対応を考慮する必要があります。

弁当対応の際の留意点

- ・弁当対応を行う場合、保護者とのコミュニケーションを密にとることが重要です。学級での指導状況や食物アレルギーを有する児童生徒の意向等を十分考慮した上で、具体的な対応策を決定していきましょう。
- ・その際、双方にとって過度な負担とならないように配慮するとともに、状況に応じて適宜対応を評価・改善することも必要です。

【学校生活管理指導表の確認】

「アナフィラキシー／食物アレルギー」の「**E**原因食物を除去する場合により厳しい除去が必要なもの」に記載がある場合、代替食・除去食の対応は厳しいため、弁当対応を行うようにします。

（参考文献「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン《令和元年度改訂》」公財）日本学校保健会）